



(120)

ソア・システムズ

代表取締役社長 貝塚 昭男

ソア・システムズは20年以上にわたり、ハードウェアやOS（基本ソフト）に依存しないアプリケーション開発・利用環境の提供を続けてきた。その結晶である業務アプリケーション開発基盤「ル・クローン」は、金融機関のSFA（渉外支援システム）の基盤として実績を重ねている。同社の貝塚昭男社長に製品の特徴などを聞いた。



かいづか・あきお  
大阪府出身、51歳。92年入  
ソア・システムズに入社。05年執行役員に就任。07年7月から現職。

## 業務アプリを モバイル活用

### “渉外支援”の基盤で実績

製品のコンセプトは。

「業務アプリケーションは企業の資産だが、普通はハードウェアやOSが変わると使い続けることができない。『ル・クローン』はどんなハード、OSでも同じアプリケーションを活用できるミドルウェア。例えば、専用機からウインドウズ、リナックスへと環境が変わっても同一のアプリケーション

ションを利用できる」

——モバイル分野での利用が自立つが。

「98年にPDAやハンディ端末での開発・利用に、05年に携帯電話に対応。10月にはスマートフォン（コンピュータ内蔵の携帯電話）でのアプリケーション利用が可能になった。近年はこれらのハードへの利用が増え、金融機関へはメーカーやシステムインテグレーターを通じて数十の実績がある」

——利用の背景は。

「もともと金融機関の渉外担当者は黒靴に顧客台帳を入れ持ち歩いてい

なった。金融界最初の事例も城南信金のPDAを利用したSFAの基盤としてた。個人情報保護法施行後は端末にデータを保持しないウェアソリューション利用が進んだ

が、通信できない場所での利用など現場では使いにくさがある。『ル・クローン』は独自の暗号化技術やハードを合わせたセキュリティ対応を行い端末にデータを保有しても安全に利用できる」

——金融向け戦略は。

「金融界ではスマートフォンが広がりを見せている。今後もSFAの端末として拡大するだろう。この動きを見極め、パートナーの富士通やNEC、フレイニーワークスなどと協力していく」

顧客情報を管理する形に

（聞き手）伊藤 裕介